



環境認証

エコアクション21

認証番号

0007540

# 松岡カッター製作所 環境経営レポート

Environmental Management Report

# 2023

環境経営レポートの対象期間

2021年10月1日～2022年9月30日

環境経営レポート作成日

2023年1月1日

# 目次 Contents

組織の概要	p.3	トップメッセージ
	p.4	会社概要・経営理念・品質方針
環境経営方針	p.5	環境基本理念・行動理念
実施体制	p.6	経営の推進体制及び権限と役割
環境目標と環境経営計画	p.7	中長期の環境目標
	p.8	環境経営計画の実施・取組結果
	p.9	環境経営計画の取組み結果とその評価
次年度の目標と計画	p.10	次年度の環境経営目標
	p.11	次年度の環境経営計画
	p.12	実施した取組内容及び結果の総合評価
当社の取り組み	p.13	当社の取り組み
環境関連法規	p.16	環境関連法規等遵守状況の確認及び評価結果、違反、訴訟等の有無
代表者による評価	p.17	代表者による全体評価と見直しの結果

## 編集方針 Editorial policy

### 発行にあたって

本レポートは松岡カッター製作所の環境、社会に関する活動を広く知っていただくために発行するものです。

### 編集方針

「2023 環境経営レポート」は、環境と社会面から松岡カッター製作所の現況を報告する年次レポートです。社会的責任を果たすため、当社の環境保全活動および文化交流などの社会貢献活動の現況と成果を、より具体的かつ正確にご報告し、さまざまなステークホルダーの方々とのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。

### 基本項目

- 対象期間:2021年10月1日～2022年9月30日
- 対象組織:松岡カッター製作所 本社
- 対象活動:機械金属加工業(切削工具の製造)

### 将来見通しについてのご注意

本レポートに記載している当社の計画、戦略、業績予想など、将来見通しに関する内容は、現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的リスクや不確実性が含まれています。そのため、経済情勢の変化、市場の動向、関連法規の改正など、さまざまな要因の変化により、実際の業績・事業環境などが、本レポートの記述とは異なる可能性があることをご承知おきください。

株式会社松岡カッター製作所  
代表取締役会長

松岡 克彦



## Top Message

トップメッセージ

### 私たちの考える「環境経営」とは

弊社は1935年（昭和10年）の創業以来静岡の地場産業である家具・木工用の切削工具の製造販売を生業としてまいりました。更に近年はそれ以外に同じく地場産業である漁業関連の加工用刃物、そして自動車等の精密部品加工および加工用工具の製造も手掛けて参りました。

さて平成の時代から新しく令和の時代に移り、本来なら東京オリンピックが開催されたはずであった昨年より、新型コロナウイルスとの闘いを余儀なくされその結果、日本のみならず世界的パンデミックによる景気後退、同時不況という前代未聞の非常に厳しい経営環境になってしまいました。弊社も多大な影響を受け、この苦しい時代をこれから乗り越えねばなりません。そのためのキーワードの一つが「環境経営」であります。

私たちの考える「環境経営」とは、顧客が使用する際に、低騒音で省電力、限りなく長寿命のできるだけ無駄の無い、廃棄することの無いB toB製品を市場に提供することです。今後は更に、製品の製造をする私達自身が地球温暖化や気候変動への対応、低炭素・循環型社会へのシフトを目指し、常に技術革新に挑みCO2の排出量削減に努力しSDGsの精神に担う持続可能な社会に貢献いたします。それを実現するためのフィールドをメンバーである社員に提供することが会社の大きな使命であると考えます。今後共、社員一人一人がやりがいを持って働きそのことが環境に貢献できるような企業、組織体制を目指して参ります。

## Company Profile

### 会社概要



会社名	株式会社松岡カッター製作所
代表者	松岡 克彦
本社所在地	静岡県静岡市葵区古庄2丁目18番46号
設立	1957年11月1日設立
環境管理責任者	松岡 慶子
事業内容	機械金属加工業（切削工具の製造）
事業規模	資本金: 10,000,000円 従業員数: 66名（2023年1月現在）
事業年度	2021年10月から2022年9月

## Management Philosophy

### 経営理念

### 「 切削工具のパイオニア 」

基本と原則に忠実に、ものづくりとサービスを実践することで、  
顧客と社会の「今」と「未来」を創り、  
一人ひとりの社員とその家族の幸福を実現し、維持発展させる。

## Quality Policy

### 品質方針

1. 品質の向上に常に取り組む。そのために工程の改善、人材の育成を日々進め、安定した品質と最適なコストを達成するよう努める。
2. 不良品の流出を食い止める。そのために出荷検査体制を強化する。
3. 全ての部署で業務効率を向上させる。  
そのために常に業務全般の見直しを繰り返す。
4. 納期最優先。どんなに優れた製品も間に合わなければ、すべてただの無用の長物となる。
5. この品質方針を全従業員に周知するとともに、ホームページにて公開し、関係するすべての方々の理解と協力を得られるように努める。

## Environmental Basic Philosophy

### 環境基本理念

当社は、地球環境の保全が、  
人類共通の課題であることを認識し、  
事業活動の面で環境保全に配慮し、行動します。

## Behavioral Guidelines

### 行動指針

1. 省エネルギー、省資源化の推進により、  
二酸化炭素の排出量、水利用の削減に努めます。
2. リデュース（削減）、リユース（再利用）、  
リサイクル（ごみの再利用）の実践により、廃棄物を抑制します。
3. 希少金属の再利用を目指し、環境に配慮した製品づくりを推進します。
4. グリーン調達を推進します。
5. 全社員に環境の教育を行い、環境保全の意識を高めます。
6. 環境関連法令を遵守します。
7. 環境経営の継続的な改善を行います。

この環境方針ならびに取り組みは、当社で働くすべてに周知すると共に、社外の求めに応じ公開します。

制定：2009年6月11日

改訂：2020年6月9日（5回目）

株式会社松岡カッター製作所

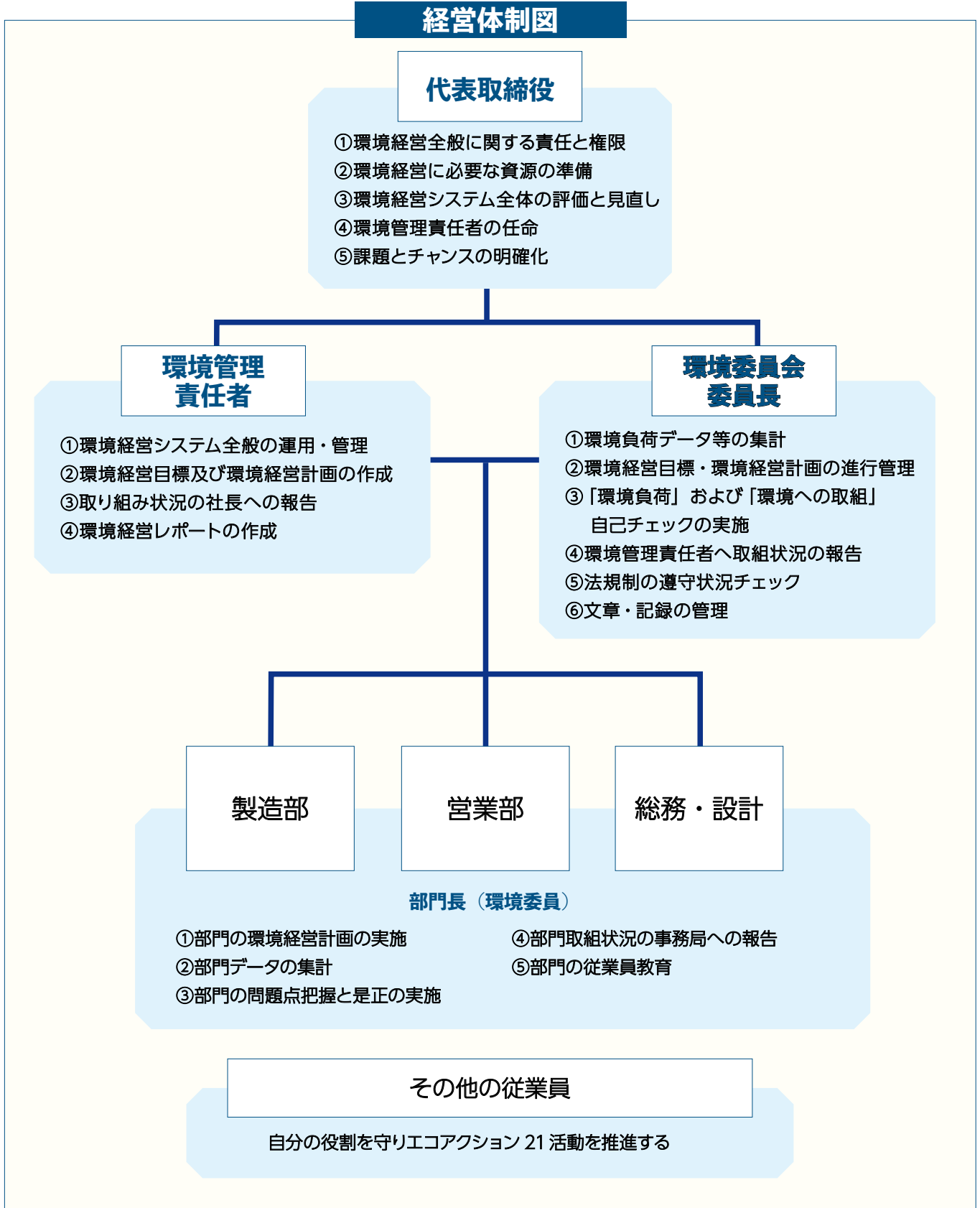
代表取締役

松岡克彦

## 経営の推進体制 及び 権限と役割

Management Promotion System and Authority and Role

当社は、環境基本方針に則り、行動指針の具現化および実践に関する基本的事項を定め、下記の組織を設置し、実現に努めています。



## 中長期の環境目標

Medium- to long-term Environmental Goals

前述の組織において、当社における中長期の環境目標を設置。  
第 69 期を基準とし、3 年間の中期予定結果は以下の通りです。

			単位	第 69 期	第 70 期	第 71 期	第 72 期
				2020.10.1 ~ 2021.9.30	2021.10.1 ~ 2022.9.30	2022.10.1 ~ 2023.9.30	2023.10.1 ~ 2024.9.30
				基準	予定実績	予定実績	予定実績
地球温暖化防止	CO2 排出量	CO2 総排出量の削減	kg-CO2	321,479	321,159	320,515	319,872
					99.9%	99.7%	99.5%
	電力の CO2 排出量削減	1. 工場設備の見直し。 設備増設・更新で 排出量を 増加させない工夫をする。	kg-CO2	285,014	284,729	284,159	283,589
				99.9%	99.7%	99.5%	
	ガソリンの CO2 排出量削減	1. 車両更新の際、ガソリン使用量が 少ない車を選択する	kg-CO2	33,151	33,118	33,052	32,985
				99.9%	99.7%	99.5%	
省資源・リサイクルの推進	廃棄物の削減	一般廃棄物	総排出量 t	3,000	2,999	2,998	2,997
				77.4%	99.93%	99.9%	
	産業廃棄物	総排出量 t	42,200	42,179	42,170	42,158	
			99.95%	99.93%	99.9%		
リサイクルの推進	1. 分別を徹底し産業廃棄物の 再利用を増やす	資源化量/ 産業廃棄物 排出量%	80% 以上	85% 以上	90% 以上	90% 以上	
	2. 段ボール・廃棄用紙の 緩衝材リサイクル	緩衝材 利用率%	92%	90% 以上	90% 以上	90% 以上	
環境マネジメント	環境事故のゼロ化	1. 油・液体の社外への漏えい、 流出の防止	件	0	0	0	0
	環境教育	1. 対応訓練の実施	回	1	1	1	1
節水	水使用量の削減	1. 水の使用状況の確認	m <sup>3</sup>	993	960	930	900
環境配慮の製品	環境対応製品	1. 製品開発準備のための調査	件	0	0	0	0
		2. 社内改善・改良提案を促進する	件	50	55	60	64
防止の推進	環境汚染	環境負荷物質の監視	物質変更時	混入無し	混入なし	混入なし	混入なし

※基準年度（第 69 期）の電力排出係数は中部電力（2017 年）0.472kg-CO2-kWh を使用

## 環境経営計画の実施・取組結果

Implementation results of environmental management plan

実施した結果の内容、その評価は下記の通りとなりました。

(実施期間：2021年10月1日から2022年9月30日)

### 環境目標に対しての評価・結果

			単位	第69期	第70期				
				2020.10.1～ 2021.9.30	2020.10.1～2021.9.30				
				基準年	目標	目標値	実績値	実績削減率	評価
地球温暖化防止	C02 排出量	C02 総排出量の削減	kg-C02	321,479	▲ 0.1%	321,159	332,125	103%	×
	電力の C02 排出量削減	1. 工場設備の見直し。 設備増設・更新で 排出量を 増加させない工夫をする。	kg-C02	285,014	▲ 0.1%	228,628	291,550	128%	×
	ガソリンの C02 排出量削減	1. 車両更新の際、ガソリン使用量が 少ない車を選択する	kg-C02	33,151	▲ 0.1%	33,118	36,473	110%	×
省資源・リサイクルの推進	廃棄物の削減	一般廃棄物	総排出量 t	3.00	▲ 0.05%	2.999	3.056	120%	×
		産業廃棄物	総排出量 t	42.20	▲ 0.05%	42.17	40	▲ 5.1%	○
	リサイクルの推進	1. 分別を徹底し産業廃棄物の 再利用を増やす	再資源化量/ 産業廃棄物 排出量%	80% 以上	85% 以上		80% 以上		×
		2. 段ボール・廃棄用紙の 緩衝材リサイクル	緩衝材 利用率%	92%	90% 以上		91%		×
環境マネジメント	環境事故のゼロ化	1. 油・液体の社外への漏えい、 流出の防止	件	0	0		0		○
	環境教育	1. 対応訓練の実施	回	1	1		1		○
節水	水使用量の削減	1. 水の使用状況の確認	mi	993	960		1,056		×
環境配慮の製品	環境対応製品	1. 製品開発準備のための調査	件	0	0		0		×
		2. 社内改善・改良提案を促進する	件	50	55		12		×
防止の推進	環境汚染防止	環境負荷物質の監視 社内に環境負荷物質を入れない	物質変更時	混入無し	混入無し		混入無し		○

※基準年度(第69期)の電力排出係数は中部電力(2017年)0.472kg-CO2-kWhを使用



環境経営計画の取組み結果とその評価

		担当者	評価	コメント	次年度の取組
二酸化炭素の削減	1. コンプレッサーの配管の見直し	環境責任者	×	コンプレッサーの配管見直し等は予算的に実施ができなかった。スポットクーラーの点検はなくなり計画的な廃棄および欲しい会社に譲渡し計画的に廃棄は進んでいる。エアコンの効果が薄いところもあり、日よけを設置し室温での管理に基準を変更。工場のLED化は食堂、会議室、台所以外は設置完了。	継続
	2. スポットクーラーの廃止	第一工場主任	○		
	3. 冷暖房の運転基準の遵守	全社	○		
	4. 電源のOFF		○		
	5. フィルターの清掃		○		
	6. 水銀灯・蛍光灯のLED化	環境責任者	○		
	7. タイヤの空気圧チェック	営業	○		
	8. 燃費の集計		△		
	9. 車両の点検と荷物の適正化		○		
廃棄物の削減	1. 廃棄物の分別の意識付け	環境委員会	○	各部署で廃棄物の確認分別ができていないゴミ箱の廃止等問題は都度対処。廃棄物の量を種類を確認し、見積依頼。経費の削減および徹底分別が実施できた。	継続
	2. 計画的な産業廃棄物の処理	各担当者	○		
	3. 不良品の計測	環境委員会	○		
	4. 廃棄物の集計		○		
	5. 廃棄物処理費の集計		○		
リサイクルの推進	1. コピー用紙のリサイクル率の集計	総務	○	習慣化ができています。顧客からのクレームもない。	継続
	2. 段ボールのリサイクル率の集計		○		
	3. リサイクル金属売却額の見える化		○		
作業環境改善による漏洩・流出の防止	1. 内部監査の実施	環境委員会	○	集中的に一か所を内部監査。効果的の実感あり。5Sは個人差あり。収納場所と収納量が合っていない場所もある。台車の定位置化、使用者ボードは運用されている。水溶液の濃度を統一する。水槽の清掃を継続。	継続
	2. 机の上、作業台、機械、作業場の清掃	全社	△		
	3. 台車、清掃道具、工具の定位置化		△		
	4. 機械の作業前、月次点検の徹底		○		
	5. 漏洩物の速やかな除去		○		
	6. 通路の確保（ものを置かない）		○		
水使用の削減	1. 使用量の見える化	総務	△	漏水の監視。頻繁に発生。	継続
環境教育	1. 目標・計画の周知徹底	環境委員会	○	全社員に対応すべきことが行き渡っています。	継続
	2. 緊急対応訓練の実施		○		
環境に配慮した製品作り	1. 他社の製品調査	営業	×	コロナ禍で展示会が開催されず収集できなかった。環境だけのアイデアは難しい可能性あり。	継続
	2. 音の静かな製品設計		×		
	3. 改善提案を出す。	全社	△		
化学物質	1. 新しく購入する場合 SDS を入手	各担当者	○	意識定着しています。	継続
	2. 環境負荷を起こす物質を使わない	全社	○		

## 次年度の環境経営目標

Environmental management goals for the next fiscal year

前述の組織において、当社における中長期の環境経営目標を設置。

第 69 期を基準とし、今後の目標を定めています。

(実施期間：2021 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日)

### 次年度の環境経営目標

				第 69 期	第 70~72 期
				2020.10.1 ~ 2021.9.30	2021.10.1 ~ 2024.9.30
				基準年	目標
地球温暖化防止	C02 排出量	C02 総排出量の削減	kg-C02	321,479	-0.5%
	電力の C02 排出量削減	1. 工場設備の見直し。 設備増設・更新で排出量を増加させない工夫をする。	kg-C02	285,014	-0.5%
	ガソリンの C02 排出量削減	1. 車両更新の際、ガソリン使用量が少ない車を選択する	kg-C02	33,151	-0.5%
省資源・リサイクルの推進	廃棄物の削減	一般廃棄物	総排出量 t	3.00	-0.1%
		産業廃棄物	総排出量 t	42.20	-0.1%
		段ボール・廃棄用紙の緩衝材リサイクル	緩衝材利用率%	91%	90%以上
環境マネジメント	環境事故のゼロ化	1. 油・液体の社外への漏えい、流出の防止	件	0	0
	環境教育	1. 対応訓練の実施	回	1	1
節水	水使用量の削減	1. 水の使用状況の確認	m <sup>3</sup>	993	900
環境配慮の製品	環境対応製品	1. 製品開発準備のための調査	件	0	0
		2. 社内改善提案中、5%環境改善提案を出す。	パーセント	0%	64
防止の推進 環境汚染	環境負荷物質の監視	社内に環境負荷物質を入れない	物質変更時	混入無し	混入無し

※基準年度（第 69 期）の電力排出係数は中部電力（2017 年）0.472kg-CO2-kWh を使用

## 次年度の環境経営計画

Environmental Management Plan for the next fiscal year

当社における中長期の環境経営計画。対象範囲である本社工場にて具体的に実施していく取り組みを定めたものです。

		スケジュール	担当者
二酸化炭素の削減	1. コンプレッサーの配管の見直し	第1、第2工場	環境責任者
	2. スポットクーラーの廃止	廃棄準備	第3工場主任
	3. 冷暖房の運転基準の遵守	毎月確認	全社
	4. 電源の OFF	常時	
	5. フィルターの清掃	毎月15日	環境責任者
	6. 蛍光灯の LED 化	第3工場、会議室、食堂	
	7. タイヤの空気圧チェック	毎週	
	8. 車両の点検と荷物の適正化	毎週	営業
廃棄物の削減	1. 廃棄物の分別の意識付け	毎月	環境委員会
	2. 計画的な産業廃棄物の処理	各部署での基準	各担当者
	3. 不良品の計測	毎月	環境委員会
	4. 廃棄物の集計	その都度	
	5. 廃棄物処理費の集計	その都度	
リサイクルの推進	1. 段ボールのリサイクル率の集計	毎月	各担当者
	2. リサイクル金属売却額の見える化	毎月	
作業環境改善による 漏洩・流出の防止	1. 内部監査の実施	年2回	環境委員会
	2. 机の上、作業台、機械、作業場の清掃	環境活動時間	全社
	3. 台車、清掃道具、工具の定位置化		
	4. 機械の作業前、月次点検の徹底		
	5. 漏洩物の速やかな除去		
	6. 通路の確保（ものを置かない）		
水使用の削減	1. 使用量の見える化	毎月	総務
環境教育	1. 目標・計画の周知徹底	毎月	環境委員会
	2. 緊急対応訓練の実施	年1回	
環境に配慮した 製品作り	1. 他社の製品調査（原材料・機械購入を含む）	展示会	営業
	2. 改善提案を出す	年1回	
化学物質	1. 新しく購入する場合 SDS を入手	その都度	全社
	2. 環境負荷を起こす物質を使わない	常時	各担当者
外部対応	1. 取引先、公共団体からの 環境アンケート等に積極的に協力する。	その都度	環境委員会

## 実施した取組内容及び結果の総合評価

Comprehensive evaluation of the contents and results of the implemented efforts



### 二酸化炭素排出量

効率的な生産を行うことで、無駄な電気の使用を抑えている。点検表やグラフ化による共有で今後も注視。



第3工場にエアコンが配置されたことで全工場にエアコン完備となった。スポットクーラーは不要となり、計画的に廃棄を継続。しかしこの新しいエアコンの排気により第4工場のコンプレッサーの温度が上昇している件は今後点検表で注意が必要。



### 節水

漏水が頻発。都度修繕はしている。節水は社員に呼びかけ、都度注意喚起。



電力と同じく、水道量もグラフ化して社内に共有を行っている。外水道の無断使用の禁止し、漏水の原因を探ることと対処を適宜行っていく。



### 廃棄物削減

廃棄物と資源の違いと分別の意識づけを行い、分別のできていないゴミ箱は廃棄する。



意識づけの結果、問題があった際には報告が上がってきた。分別がされている廃棄物の量や種類を確認、見積依頼をとり、経費の削減および徹底分別が実施できた。社内のリサイクルは継続して行われている。



### 環境配慮型製品

展示会などで製品開発のための調査を行い、情報共有。アイデアコンクールにて環境に関する提案を10件以上出す。



コロナ禍で展示会が開催されず収集できなかった。アイデアコンクールでも、環境だけのアイデアはなかなか出るのが難しく、応募数もそれほど多くなかった。

## 次年度取組にむけて

For next year's efforts

次年度の環境経営目標は変更なし

## 当社の取り組み

Our efforts

本年度に弊社で実施及び継続した具体的な内容をご紹介します。

### 電力消費の低減、省エネルギー化への取り組み



#### エアコンの温度設定基準の見直し

以前はエアコンを設定温度で全社内稼働させていたが、工場内の機械の種類によりエアコンの効きにバラツキがあったので、設定温度ではなく、実際の室温で調整することにした。電力を使用している割に効果がないという事態を改善し、これから電力量と見合わせて適切な温度管理をしていきます。



#### 第三工場のエアコン整備

第3工場内エアコンが設置され、全工場に空調が配備され冷房効率が上がり、また以前使用していたスポットクーラーを廃止することで、CO2の排出率の減少が見込まれます。



第3工場に合計三台を新しく設置。社員の熱中症も防げる。



#### 第一工場に日除けを設置

第1工場の南側面は夏場は日光が差し込み、温度が高くなりやすい。冷房に効きもここのだけ悪くなってしまうので、日除けを設置し、温度上昇を緩和。エアコンの効きにも効果を発揮しました。



使われていないときは  
は畳んでしまわれて  
いる。



直射日光を遮断し、  
室内へ籠る熱を  
軽減。



#### 照明器具のLED化

毎年少しずつ工場内の照明に用いていた水銀灯・蛍光灯をLEDに変更。水銀灯・蛍光灯は業者による適切な処理を行われ、第3工場、第1工場の一部内の照明の入れ替えが完了しました。工場内が明るくなり、電力消費の上でも省エネになりました。





環境配慮への取り組み



切削液の濃度・状態の定期点検

切削液を変更したことで適切な濃度の点検と状態の確認を定期的に行っています。点検した結果は毎月点検表に記入し、異変があったら対応できるようにしています。

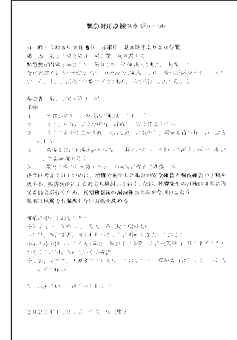


濃度計を用いて適切な濃度になっている確認。また、カビや異臭のチェックも。



緊急対応訓練 2022年2月7日実施

年に一度、弊社で使用している廃液が漏洩した場合を想定した緊急対応の訓練を行っています。今回は第二、三工場の間の廃液置き場で廃液缶が地震によって転倒し、中の廃液が漏洩することを想定した際の手順などを確認しました。※訓練中では水を溢して訓練しています。



ゴミ分別の細分化、リサイクル買取の利用

社内ででた廃棄物に関して、業者から話を伺った所、もっと分別を細かくするよう推奨されたので、ゴミ箱の種類を増やし、定められた分別の仕方をするようにルール化。結果、社内で分別の認識が行き渡り、リサイクル買取での買取額もアップしました。



■ 来期に向けての実施計画一例

冷暖房の運転基準

温度・湿度を室温を基準に調整して設定し実施する

エアの配管を見直し

従来のビニールホース配管から鉄配管へ移行することで使用電力の低減に繋がるのか検討、見直しを図る。

# 環境関連法規等遵守状況の確認及び評価結果、違反、訴訟等の有無

Confirmation of compliance with environment-related laws and regulations, evaluation results, violations, proceedings, etc.

## 環境関連法規等の遵守状況

同事業所に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果は以下の通りです。

環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局よりの違反などの指摘は、過去3年間ありません。

環境に関する外部からの苦情、訴訟等もございませんでした。

評価者：環境管理責任者 松岡慶子

法規・条例・規制	適用内容または規制基準値	備考	遵守状況	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 法律廃棄物の削減	廃棄物処理業者との委託契約作成	契約書の締結	2022/9/30	○
	産廃保管場所の掲示板設置	60cm×60cm掲示板	2022/9/30	○
	マニフェストの管理	B、D票、E票の返却	2022/9/30	○
	マニフェストの返却期間	90日以内または180日以内	2022/9/30	○
	マニフェストの保管	5年間	2022/9/30	○
	マニフェストの年間交付状況報告 (2020年より電子申請)	3月末の1年実績を6月末までに静岡市へ報告	2022/9/30	○
消防法	第21条の4火災報知機の設置	2021年6月点検 実施	2022/9/30	○
	第21条の4屋内消火栓の設置			○
	第31条の4消防用設備の等点検と報告			○
グリーン購入	環境物品の購入（できる限り）	事業者の一般責務	2022/9/30	○
自動車リサイクル法	取引業者への引き渡し	リサイクル料金の支払い	2022/9/30	○
騒音規制法	第5条 特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を順守	空気圧縮および送風機 2台	2022/9/30	○
	第6条の1 特定施設の届出			
振動規制法	第5条 特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を順守	空気圧縮機 15kw 2台	2022/9/30	○
	第6条の1 特定施設の届出			
フロン類の使用の合理化及び適正化に関する法律	簡易点検：四半期に1回以上、 定期点検：7.5 Kw以上 50 Kw未満は 3年に1回以上、50Kw以上は1年に1回以上	該当のエアコン 12台 スポットクーラー 7台	2022/9/30	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別処置法	第2条上 ポリ塩化ビフェニル廃棄物 処理状況報告	低濃度 PCB 廃棄物処理	2022/9/30	○
労働安全衛生法	第2の6号作業環境測定の実施	グラインダー作業場	2022/9/30	○
静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第10条委託業者の処分状況確認	HPにて確認	2022/9/30	○
	第17条処理状況報告	6月末まで提出	2022/9/30	○
静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	第4条 事業系一般廃棄物処理	静岡市の指定袋購入廃棄	2022/9/30	○



## 代表者による全体評価と見直し・指示

Overall evaluation and review / instruction by the representative

2021年10月1日から2022年9月30日までの取組について、環境経営方針、環境経営目標および環境経営計画、実施体制を含めた実施状況などについて評価をおこないました。

### 1. 環境経営方針について

コロナ禍の売上減少の中で、LED化の予算も縮小、第3工場のみ設置であったが、少しの進歩ができた。第3工場にエアコンを設置し、工場内の環境が整ったが、生産設備以外での電気使用量が増えたコスト削減が必要と思われる。

### 2. 環境経営目標および環境経営計画、実施体制および実施状況について

顧客要求による二酸化炭素削減目標が提示されたのでその目標に沿うようにします。

毎年の漏洩訓練におけるデータが集まり、各工場の漏洩防止ポイント場所が把握できたことを活かして欲しい。(マップ化など)

コンプレッサーとエアコン排気の状態をチェックし、問題が大きければ対応策を考える。

研削液の濃度、希釈方法などは労基法にも関わることなので、適正な状況を監視していく。

分別の徹底による産業廃棄物処理費の削減および資源高額買取による費用削減を推進する。

紙の使用をできる限り少なくし、PDFや電子掲示板に掲載できるものはできる限り電子化する。

(タイムカードのカード化)

カーボンニュートラルへの取組指標が確定し、自動車関連企業からの要望に沿う形に目標値を変更する。取引先からの情報共有、進捗状況の報告も協力していく。

社内的には以下の点に注視したい。

1. 電気使用量の削減
2. エアコンの排熱とコンプレッサーの関連
3. 社内100%LED化
4. 切削液、研削液の監視強化

安全、安心に作業ができる社内環境を整え、無駄とムラをできる限り削減する作業環境を整えることを目標としていきたい。勤怠関連の電子化、インボイス方式導入による電子化をすすめ、紙媒体をできる限り削減する。

令和5年1月1日

株式会社松岡カッター製作所

代表取締役社長 松岡慶子



切削工具の専門メーカー

株式  
会社

松岡カッター製作所

<https://matsuoka-cutter.jp>

